

事例1 入院中から退院後、4ヶ月間かかった方への支援

<依頼者>: ケアマネジャー

<相談内容>: 大腿転子部骨折後で、自宅退院する。今度、外出予定で住宅改修や福祉用具選定など一緒にみてほしい。

<利用者>

年齢	90 歳代前半	性別	女性	疾患名	大腿骨転子部骨折術後
介護度	要介護 3		介護度の変化		なし

<介入内容>

入院中

ご本人・ご家族: 身体状況について病院にてリハ職同席にて見学した。外出時; 自宅内での動作確認、住宅改修、福祉用具について助言した。当初は、出入りは玄関からと考えていたが、身体面、住環境から居間からの出入りを提案した。

担当 PT、MSW: 身体状況について、直接動作を確認しながら情報提供してもらった。家屋調査について、書面にて報告し、移動、入浴について入院中に検討して頂くよう依頼した。⇒家族にも入浴を見学して頂いた。

ケアマネジャー: 外出時同行し、動作の確認をしながら、住宅改修、福祉用具の選定を行った。病院への報告についても同じものを書面にてお伝えした。

福祉用具貸与事業者: 外出時同行し、動作の確認をしながら、住宅改修、福祉用具の選定を行った。

退院後

ご本人: 自宅での動作確認をし、活動量が維持・向上できるよう、以前のように週 1 回程度はご家族と買い物に行くことを提案する。さらに、1ヶ月後訪問では、痛みが落ち着いており、数mは歩行器なしで歩行が可能であり、運動についても提案した。⇒随時対応することになった。

ご家族: レンタルした手すりは使用しておらず返却するよう提案した。また、外出についてもこれまで同様誘って頂き、活動量を維持・向上できるように助言した。⇒次月返却することになった。

ケアマネジャー: 同行訪問し、一緒に動作確認をした。⇒福祉用具貸与事業者等との調整していただいた。⇒随時、連絡を頂くようした。

<連携機関> 居宅介護支援事業所、医療機関、福祉用具貸与・住宅改修事業者